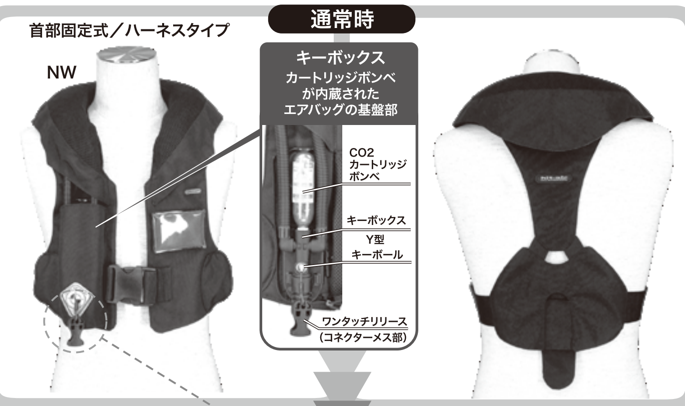
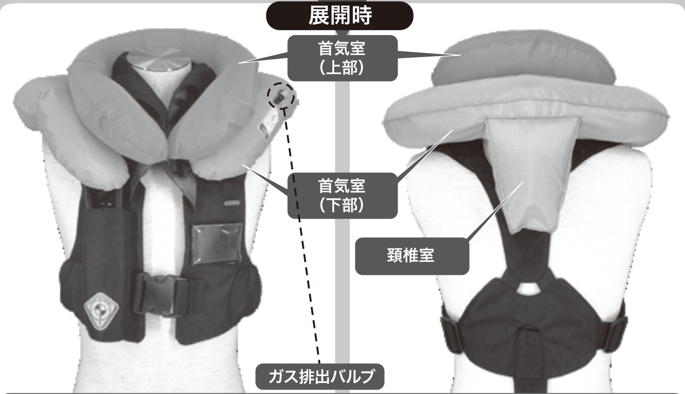
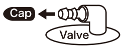
3 各名称・形状


通常時
首部固定式／ハーネスタイプ
NW
キーボックス
カートリッジボンベが内蔵されたエアバッグの基盤部
CO2 カートリッジ ボンベ
キーボックス
Y型 キーボール
ワンタッチリリース（コネクターメス部）

キーボールが抜けエアバッグが展開します


展開時
首気室（上部）
首気室（下部）
頚椎室
ガス排出バルブ

注意⚠ エアバッグ展開時にガスを直ぐに抜きたい場合はバルブのキャップを外して下さい。外したキャップは、必ず再生の際に元に戻して下さい。
※モデルによってガス排出バルブがない場合があります。



※モデルによってデザイン・形状等は異なる場合があります。

---

7 作動後の再生

7-1 再生するには

一度作動したヒットエアーシステムは、取扱店で〈メンテナンスサービス〉をして、再生させる事をおすすめします。ここに紹介するセッティング方法で、各自で再生する事はできますが、正しくセットしないで利用した場合、正常に作動しない場合があります。又、作動した際などに外傷等の異常が発生したものは再生できません。以上の点を十分考慮してお取り扱いください。

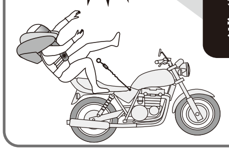
再生方法

作動（展開）

異常有り → 取扱店に持ち込み、メンテナンスチェックにより、再生可能か確認してもらい指示を受ける

異常無し → 取扱店に持ち込み、必要な部品（カートリッジボンベ等）を交換して再生する

異常無し → 各自で再生する
※未使用カートリッジボンベと付属の再生工具（セッティングボルト、六角レンチ）が必要です



※附属品として六角レンチとセッティングボルトが付いています

各自で再生するおおまかな手順

詳しくは次のページの「再生作業」を参照下さい

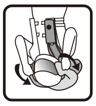
- 未使用カートリッジボンベと再生工具を準備します 〈P19〉1.参照
- ▼ キーボックスに工具を使ってキーボールをセットします 〈P19〉2～4.参照
- ▼ カートリッジボンベを外します 〈P20〉5.参照
- ▼ エアバッグ気室から炭酸ガスを抜き出します 〈P20〉6.参照
- ▼ 未使用カートリッジボンベを取付けます 〈P23〉17.参照
- ▼ キーボックスのカバーを締めて完了です 〈P23〉18.参照

---

4 構造

4-1 機能

1. 「一定の距離」離れた瞬間作動し、エアバッグ（気室）に炭酸ガスを送り込み膨らみます。最大限に膨らむまでにも、衝撃を緩和する効果があります。
2. 胸部にあるカートリッジボンベ及び、キーボックスの背面部分には、事故の際にそれらの突起物が原因となる衝撃を緩和・分散させるために、緩衝材やキーボックスプレート（プラスチック製）が取り付けてあります。
3. 作動後、最大限に膨らんだエアバッグ（気室）は、徐々にガスが抜ける仕組みになっています。アクシデントの衝撃度合いなどにより変わりますが、作動直後に身体への圧迫がありますが、徐々にガスが抜けて圧迫がなくなっていきます。息苦しい場合は、ガス抜きバルブのキャップをはずしガスを抜く（右図）か、脱衣して圧迫を解消して下さい。
※モデルによってガス排出バルブがない場合があります



◀ フロントファスナーやバックルを外し、左右気室先端を後にずらすと圧迫感が解消できます。

注意⚠ 4. ヒットエアーシステム及びウェアの生地、気室、マジックテープ、ファスナー、バックル等が傷ついたり、破損した場合は、正常な作動をしません。取扱店にご相談下さい。再生できない場合があります。

注意⚠ 5. 事故などで作動し、傷・破損等が見当たらない場合でも取扱店、又は当方にてメンテナンスチェック〈※3〉を行ってから再使用する事をお勧めします。

〈※3〉 メンテナンスチェックとは、ウェアなどに、傷・破損が見当たらなくても、その中に組み込まれている気室に破損がある場合がありますので、当方にて各気室に空気を入れ漏れがないか、又、組み込まれた部品に異常がないかを確かめる作業です。

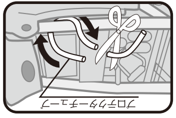
4-2 気室

1. 気室の素材は、筒状のポリウレタンフィルムを使用し、より強度をもたせ、作動時の衝撃を出来るだけ多く吸収するようにしてあります。
2. 通常、作動した瞬間の気室の圧力は、最大膨張時約30kpa(約0.30kg/㎠)程ですが、徐々にガスが放出され、圧力はさがっていく様になっています。
※使用条件や気温等によって圧力は変わる場合があります。
3. 炭酸ガス（CO2）はキーボックスからエアーチューブを通り各気室(ポリウレタンフィルム)に送り込まれます。
4. 破損等に対する強度は、ウェアの素材、ポリウレタンフィルム及び、縫製強度によっても違います。また、接触する物の形状、強度、摩擦等によってもか変わります。

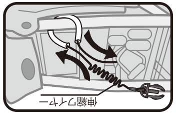
○ ヒットエアーは、衝撃によるダメージを少しでも和らげるために作られたものであり、接触物の形状及び、衝撃の度合いにより、破損等も考えられます。

5-4 伸縮ワイヤー取付方法・位置

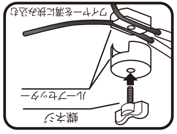
伸縮ワイヤーの取付方法


1
プロテクターチューブ

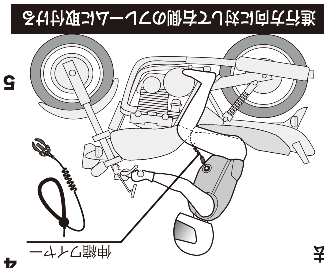
フレームにプロテクターチューブを巻き付けて長さを調節し、余った部分はカットします。



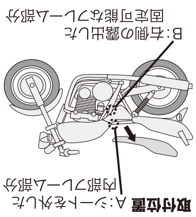
プロテクターチューブに伸縮ワイヤーを通します。


3
蝶ネジ
ループセッター
ワイヤーを溝に挟み込む

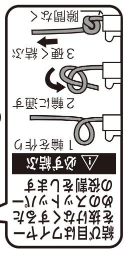
プロテクターチューブから出たワイヤーをループセッターで仮止めし、伸縮ワイヤーの長さを調節します。



進行方向に対して右側のフレームに取付ける

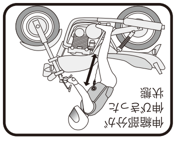


取付位置 A：シートを外した内部フレーム部分
B：右側の露出した固定可能なフレーム部分

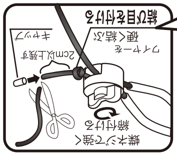


結び目はワイヤーを抜けなくするためのストッパーの役割をします

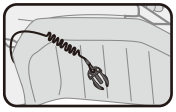
⚠ 必ず結ぶ
1 輪を作り
2 輪に通す
3 硬く結ぶ
隙間なく


4
伸縮部分が伸びきった状態

バイクに股がりスタンディング姿勢で、伸縮ワイヤーが伸びきった状態で長さを決めます。


5
蝶ネジで強く締付ける
ワイヤーを硬く結ぶ
2cm以上残す
キャップ
結び目を付ける

ループセッターでしっかり固定し、余ったワイヤーの根元を固く結び、2cm以上残した状態でカットし、先端にキャップをします。

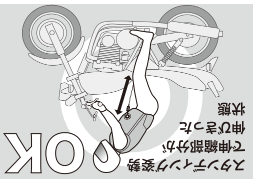


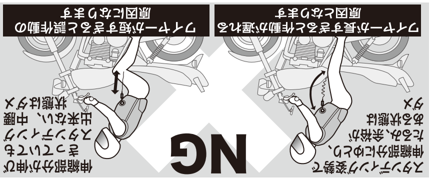
シートをかぶせて完成です。

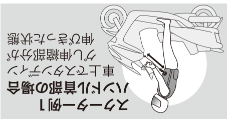
注意⚠ **伸縮ワイヤーは、運転動作の妨げになるような場所、バイクに損傷を及ぼす場所、引っ張られた際に外れたり抜けたりする場所、エンジンやマフラー等の高温付近への取付けはおやめ下さい。**

伸縮ワイヤーの長さ調節方法

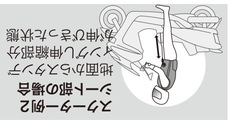
バイクにまたがりスタンディングし伸縮ワイヤーの**伸縮部分が伸びきった状態**にする


OK
スタンディング姿勢で伸縮部分が伸びきった状態

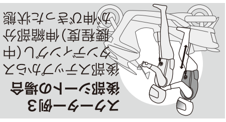

NG
スタンディング姿勢で伸縮部分にゆとり、たるみ、余裕がある状態はダメ
伸縮部分が伸びきっていてもスタンディング出来ない、中腰状態はダメ
ワイヤーが長すぎると作動が遅れる原因となります
ワイヤーが短すぎると誤作動の原因になります



スクーター例1 ハンドル首部の場合
車上でスタンディングし伸縮部分が伸びきった状態



スクーター例2 シート部の場合
地面からスタンディングし伸縮部分が伸びきった状態



スクーター例3 後部シートの場合
後部ステップからスタンディングし（中腰程度）伸縮部分が伸びきった状態

バイクの大きさ車種、ご自身の身長によって伸縮ワイヤーの取付位置、長さが異なります。
上記を参考にご自身にあった方法で調節して下さい。